

豊かな生活を支えるアンテナ・伝搬及び関連システムの論文特集の発行にあたって



豊かな生活を支えるアンテナ・伝搬及び関連システムの論文特集編集委員会

委員長 高橋 徹

第5世代移動通信システムの実用化が迫っている。これによりIoTが更に進展し、農業/交通/流通/エネルギー/建設/医療等の多くの分野に様々な変革がもたらされ、我々の生活が更に豊かなものへと発展することが期待されている。更に、高精度測位、センシング、無線電力伝送なども我々の豊かな生活実現にとって必要不可欠なものとなりつつある。アンテナ・伝搬の技術は、これらの無線システムの実現に大きな貢献をしてきており、まさに豊かな生活を支える基盤技術として位置付けることができる。

以上の背景により、今年度もアンテナ・伝搬及び関連するシステムを対象とする和文論文特集を企画した。本特集は、アンテナ・伝播研究専門委員会(A・P研)が中心となって企画し、和文論文誌Bに毎年掲載している、いわゆるアンテナ・伝搬関連特集(AP特集)の18号目となる。和文論文誌にはインパクトファクタはないものの、日本国内の多くの研究者に「読まれている」事実があるため、若手研究者が研究成果を幅広い読者に対して情報発信する貴重な場として和文論文誌を位置づけ、企画を継続している。

今回の特集には、論文24編(招待論文3編・レター5編を含む)の投稿があった。厳正な査読の結果、最終的に論文17編(招待論文3編・レター3編を含む)が採択された。投稿数及び採録数は例年のAP特集号

と同程度の件数であるが、アンテナハードウェア・電波伝搬・アンテナシステム・レーダといった幅広い分野の論文を掲載することができた。

また、本特集では、移動通信のチャンネルモデルの変遷、仮想アレーアンテナを用いたアンテナ測定法と到来方向推定法、及びマイクロストリップアンテナの特性可変技術に関する3編の招待論文を掲載した。いずれも、それぞれの分野の第一線で活躍されている研究者に執筆頂いており、多くの研究者にとって有用、かつ貴重な情報が含まれている。豊かな生活実現を目指した読者各位の研究推進の一助となれば幸いである。

最後に、本特集を発行するにあたり、投稿頂いた著者の皆様、査読に協力頂いた査読委員の皆様、企画及び編集作業に尽力頂いた編集幹事・編集委員の皆様、そして本会事務局の皆様深く感謝する。

たかはし とおる
高橋 徹(正員:シニア会員) 平4早大・理工・電気卒。平6同大大学院修士課程了。同年三菱電機(株)入社。以来、レーダ/通信等の各種アンテナ、レーダ/データリンク等の各種無線システムの研究開発に従事。現在、同社情報技術総合研究所アンテナ技術部に勤務。博士(工学)。平11本会学術奨励賞、平23、26、27、28本会通信サイエティ活動功労賞、平26、30本会通信サイエティ論文賞(優秀論文賞)受賞。著書「通信技術者のためのレーダの基礎」。IEEEシニア会員。

豊かな生活を支えるアンテナ・伝搬及び関連システムの論文特集編集委員会

委員長	高橋 徹
副委員長	有馬 卓司・山田 渉
委員	内田 大輔・袁 巧微・大島 一郎・武田 茂樹 竹村 暢康・長 敬三・西 正博・西本 研悟 西森 健太郎・藤本 孝文・山田 寛喜